

指導資料

総合的な学習の時間 第13号

- 小, 中, 特別支援学校対象 -

鹿児島県総合教育センター

平成23年4月発行

総合的な学習の時間の趣旨を生かす指導計画の在り方

新学習指導要領において、総合的な学習の時間（以下、総合の時間）は、変化の激しい社会に対応して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとしていることから、各学校においては、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習、探究的な学習をより充実することが求められている。

また、「総則」から独立し、各教科や道徳などと同様に「章立て」され、教育課程における位置付けが明確になった。

これらに伴い、各学校では指導計画の見直しが行われてきたが、改訂の趣旨や要点等を踏まえた指導計画になっているか確認が必要である。

そこで、本稿では、自校の指導計画を見直し、改善していくためのポイントについて述べる。

1 学校で備えるべき指導計画

学校で備えるべき指導計画として、学校全体の取組の方針を示す「全体計画」と、1年間の学習活動が見通せる「年間指導計画」、具体的な活動の計画である「単元計画」の三つが考えられる。(図1)

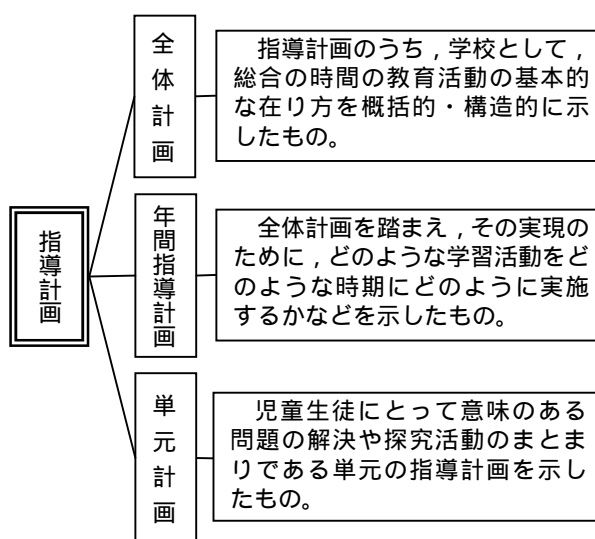


図1 学校で備えるべき指導計画

2 指導計画に盛り込む要素

指導計画に盛り込む要素として次の～が考えられる。

- 目標
- 育てようとする資質や能力及び態度
- 内容
- 学習活動
- 指導方法
- 学習の評価
- 指導体制
- * それぞれの内容の説明は次頁図2参照

特に～は、総合の時間において、その趣旨を生かし、横断的・総合的な学習や探究的な学習の実現をめざすために、全体計画を作成する上で欠かせない要素である。

3 全体計画

(1) 全体計画の様式

～ の要素を含む全体計画の様式として、図2のような形が考えられるが、形にこだわらず、各学校の総合の時間の基本的な在り方を概括的・構造的に見ることができるよう、各学校で工夫することが必要である。

なお、～ の要素は、必ずしも全体計画に全て含む必要はなく、年間指導計画や単元計画の中に盛り込むことも考えられる。

(2) 各学校において定める目標

各学校において定める目標は、学習指導要領に示された総合の時間の目標を構成する五つの要素（右上のア～オ）を含むこ

とが求められている。

ア 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、イ 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、ウ 学び方やものの考え方を身に付け、エ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、オ 自己の生き方を考えることができるようにする。

* 囲み文字は五つの要素の区分を示す（筆者の加筆）

それは、学習指導要領に示された目標を踏まえることで、総合の時間全体を通して、各学校で育てたいと願う児童生徒像や育てようとする資質や能力及び態度、学習活動の在り方などを明確にすることにつながるからである。

なお、目標を書き表す際には、五つの要

 必須の要件として記すもの
 基本的な内容や方針等を概括的に示すもの
 各学校が全体計画を示す上で必要と考えるもの

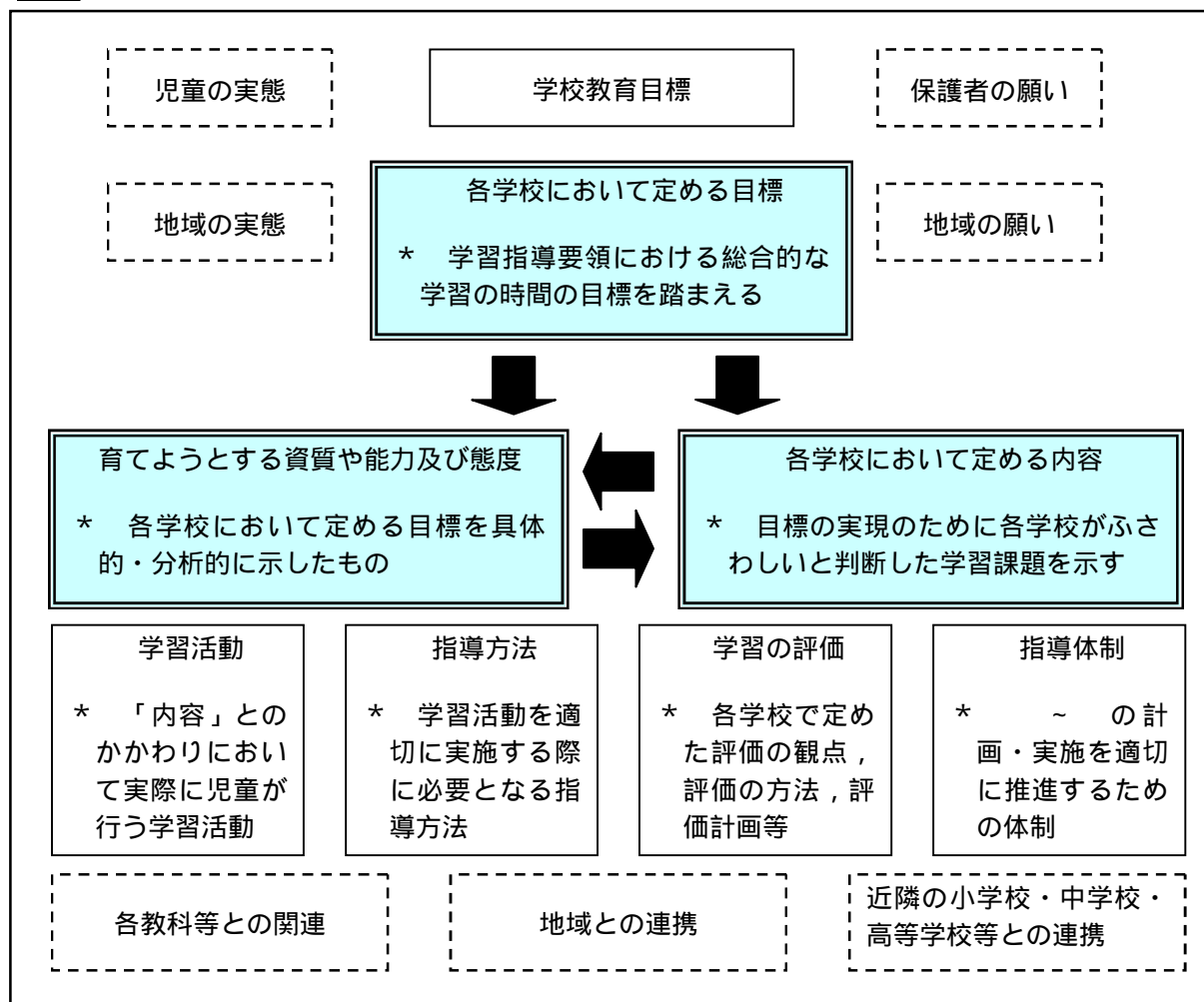


図2 全体計画の様式例*1

素を学校の実態に応じて具体的に書き込む「具体化」、いずれかの要素を強調する「重点化」、別の要素を加える「付加」などの方法が考えられる。(例1)

また、目標は必ずしも一文で表す必要はなく、例2のように複数の文を列挙して表すことも考えられる。

【例1：鹿児島市立草牟田小学校の目標】

自分の生活や自分とかがわる様々な人々とのかかわりについて探究することを通して、総合的に追究する学習方法を身に付け、自然や自分の住んでいる地域や特色にかかわったり自らの生き方を見つめたりしながら、様々な人々とのかかわりのよさを実感し、人や自然にやさしく接し、地域への愛着や誇りをもつ子どもを育てる。

【例2：鹿児島市立東桜島中学校の目標】

- 1 自分の身のまわりや社会、自然、郷土に目を向け、自分の興味・関心に基づくテーマを設定し、学びの世界を広げさせる。
- 2 設定したテーマに向かい、人と関わりながら、意欲的に粘り強く課題を解決する態度を育て、豊かな表現ができるようにする。
- 3 自分を見つめ、自分の生き方や在り方について前向きに考えられるようにする。

(3) 育てようとする資質や能力及び態度

育てようとする資質や能力及び態度は、各学校で定めた目標を、より具体的・分析的に示したものである。すなわち、総合の時間でどのような児童生徒に育てたいかを明示したものである。

学習指導要領解説には、学習方法に関すること、自分自身に関すること、他者や社会とのかかわりに関することの三つの視点が示されており、それらを参考にし、各学校の目標や児童生徒の実態等を踏まえて設定することになる。

【東桜島中学校の例】

学年テーマ(第3学年)

「桜島の未来・人々の幸せ」

育てたい資質や能力及び態度

- ・ 最適な学習方法を考え、より効果的な学習活動を行うことができる。
- ・ 自分の課題と社会全体とのかかわりを追究し、学習する事柄の背景となる部分まで理解を深めることができる。
- ・ 社会に貢献するような考えや意見をもつことができる。

(4) 各学校において定める内容

各学校では、総合の時間で学習する内容として、目標の実現のためにふさわしいと判断した学習課題を定める必要がある。その際、兼ね備えるべき要件としては次の三つが考えられる。

横断的・総合的な学習としての性格をもつこと

探究的に学習することがふさわしいこと

学習や気づきが自己の生き方を考えることに結びついていくこと

学習課題を定めるに当たっては、学習活動を焦点化し、目標の実現につながるよう、例えば次のように、児童生徒が探究的にかかわりを深めていくひと・もの・ことなどの「学習対象」や、学習対象とのかかわりを通して学ぶことが期待される「学習事項」を明確にすることが必要である。

(例)

【学習課題】

地域や学校の特色に応じた課題：伝統文化

【学習対象】

地域の伝統や文化と、その継承に力を注ぐ人々

【学習事項】

- ・ 地域の伝統や文化のもつ特徴
- ・ 地域の伝統や文化の継承に力を注ぐ人々の思い
- ・ 地域の一員として、伝統や文化を守り、受け継ごうとする活動や取組 など

なお、学習課題は、学習指導要領に例示された課題のすべてを取りあげるというのではなく、各学校の設定した目標、育てたい資質や能力及び態度、児童生徒の関心、地域や学校の実態、学年・校種間のつながりなどを考慮し、適切な課題を重点化して設定することが重要である。

4 年間指導計画

年間指導計画は、全体計画を踏まえ、その実現のために、どのような学習活動を、どのような時期に、どのように実施するかなどを示すものである。規定された様式はないが、要素としては「単元名」「主な学習活動」「活動時期」「予定される時数」

などが考えられる。

年間指導計画における単元配列は、図3のように様々なパターンが考えられる。児童生徒・学校・地域の実態や、探究する課題などに応じて工夫することが大切である。

図4は、児童が通学などに活用している「市電」を共通の題材にし、学年ごとに地域、環境、国際理解、福祉・健康、伝統文化などの学習課題を設け、探究的な活動を計画した年間指導計画の例である。

次頁表1は、「桜島」を共通の題材として、各学年で学習課題を設定し、学習活動の流れは全学年共通に取り組めるように計画された年間指導計画の例である。

なお、年間指導計画は、児童生徒の興味・関心や問題意識が当初の計画と異なったり、想定していた児童生徒の姿と実際の姿との間に大きな隔たりが生じたりした場合には、単元の途中であっても変更や改善を加えること

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
分散型	■			■			■			■		
年間継続型	■						■					
集中型	■			■						■		
並列型	■			■			■			■		
複合型	■ (学級)			■ (学年)			■ (学級)			■ (学級)		

図3 単元配列のパターン例*2

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
3年	「乗ってみよう市電、見つけよういいところ」(35) 身のまわりの地域の様子 路面電車の広がり、沿線の自然の様子、地域の人々の様子 など						「発見！ぼくらの市電の秘密」(35)					
4年	「優しい電車、緑のために」(35) 環境、国際理解 温暖化対策事業、緑化運動、市の対策、植樹運動、姉妹都市 など						「守ろう鹿児島、守ろう環境」(38)					
5年	「優しい電車、みんなを乗せて」(38) 福祉・健康 バリアフリーの車両、市の福祉、車いす体験 など						「広げよう福祉、みんなのために」(37)					
6年	「発見！市電から見る鹿児島の偉人」(38) 伝統・文化、自分の将来 地域の偉人、伝統工芸、文化、「のぞみ」実現に向けて など						「めざせ！のぞみ博士」(37)					

図4 鹿児島大学教育学部附属小学校の年間指導計画（平成22年度）

が望まれる。ただし，修正は安易に行うのではなく，新しい学習活動が質的な高まりにつながるかなど十分考慮すべきである。

表1 東桜島中の年間指導計画（平成22年度）

月	時	活動内容	
4	1	全体オリエンテーション	
	2	学年オリエンテーション	
	3	テーマに基づく研究課題の設定 1年「桜島の自然・環境を知る」 2年「桜島で働く人々に学ぶ」 3年「桜島の未来・人々の幸せを考える」	
	4		
5			
6	6	フィールドワーク	
	7		
	8		
	9		
	10	報告書作成	
	11	報告書作成	
	12	研究課題の見直し 活動計画の作成	
7	14	追究活動	
	15		
9	16	フィールドワーク	
	17		
	18		フィールドワークの準備
	19		フィールドワーク
	20		
	21		
10	22	まとめ，中間発表準備	
	23		
11	24	中間発表	
	25	追究活動の見直し	
	26	追究活動の見直し	
	27	研究課題を踏まえた地域貢献活動	
12	28	研究課題を踏まえた地域貢献活動	
	29	研究課題を踏まえた地域貢献活動	
1	30	研究課題を踏まえた地域貢献活動	
	31	全体発表準備	
	32		
	33		
	34	全体発表	
35	全体発表		
2	36	1年間のまとめ	

5 単元計画

(1) 単元計画の基本的な考え方

単元を計画する際には，「児童生徒の興味・関心」「育てたい資質や能力及び態度」

「題材の特性」の三つの視点を踏まえて設定することが大切である。

なお，児童生徒の興味・関心を示すものであれば何を取り上げてよいというものではなく，価値ある学習に結びつくかどうかを見極めて計画することが大切である。

また，取り扱う題材が児童生徒の興味・関心を喚起するとともに，育てたい資質や能力及び態度の育成につながるものであるか，「題材の特性」についても十分検討する必要がある。

その上で，単元を計画することで，総合の時間の目標達成につながる単元づくりにつながる。（図5）

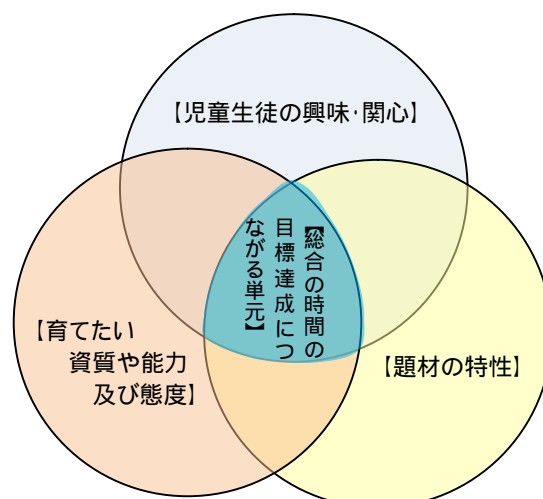


図5 単元を設定する際の三つの視点の関係

(2) 単元計画の内容

他の計画同様，単元計画についても規定された様式はないが，一つの方法として，学習指導案の形式で示すことが考えられる。

ア 単元名

単元名は，どのような学習が展開されるかを一言で端的に表現したものである。児童生徒が，学習する内容をイメージでき，また，学習意欲を高められるような

単元名を工夫する必要がある。

イ 単元設定の理由

単元設定の理由は、先に述べた単元を設定する際の三つの視点を基本として、地域や学校の特色、各教科等との関連等にも触れながら記述する。

ウ 単元の目標

単元の目標は、各学校で定めた目標や育てたい資質や能力及び態度に基づいて、この単元で具体的にどのような学習を通して、具体的にどのような資質や能力及び態度を身に付けさせるのかについて記述する。

エ 単元の評価規準

単元の評価規準は、各学校で評価の観点を設定し、作成する。（「6 学習の評価」の項参照）

オ 指導計画

指導計画は、実際に学習活動を行う際に、改めて立てることになるが、活動内容、時間数、指導のポイント、関係機関や人材の活用などについて記述する。

6 学習の評価

(1) 基本的な考え方

各学校において、総合の時間における育てたい力や取り組む学習活動や内容を、児童生徒の実態に応じて明確に定め、どのような力が身に付いたかを適切に評価することが大切である。

(2) 評価の観点

評価の観点については、学習指導要領に示された総合の時間の目標を踏まえ、各学校において具体的に定めた目標、内容に基

づいて定める。その際、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」（平成22年5月11日）で例示された次の観点を参考にしたい。

小（中）学校学習指導要領に示す総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点
* 「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」及び「自己の生き方」など
各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえた観点
* 「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」及び「他者や社会とのかかわりに関すること」など
教科との関連を明確にした観点
* 「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」など

なお、指導要録の「総合的な学習の時間の記録」については、この時間に行った学習活動及び各学校が自ら定めた評価の観点を記入した上で、それらの観点のうち、児童生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、児童生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。

今回の改訂で、総合の時間の授業時数は小中学校ともに削減されたが、「生きる力」の育成のために重要な学習活動である。目標や育てたい資質や能力及び態度を明確にし、意図的・計画的に実施できるよう各学校で指導計画を充実させることが求められる。

【参考文献・引用文献】

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編・中学校編）』（文部科学省）H22年11月
* 1, * 2・・・ 図2, 3は本文献から引用

（教科教育研修課）